

# 基礎学習や

## 現場体験の大切さ



山口県立萩工業高等学校 建設工学科土木コース教諭

「コースの決定は学生の自由です。それぞれの人数は均等ではないんです。密接した関係の専門科目であるために、ぎりぎりまで迷う生徒も多いです。1年間を通じて生徒自身の興味、関心、進路を考え、慎重にコースを決められるように配慮しています。」と建設工学科土木コース教諭の藤田伸二先生は説明されました。



山口県立萩高等学校校舎

授業内容は高度情報化社会に伴い、最新技術を取り入れたものが増えました。土木コースでは、従来の測量基準と違ったGPS測量や、正確で迅速なデータが取得できるトータルステーションが導入され、建築コースでは情報機器を駆使してユニバーサルデザインを取り入れた製図CAD実習などが行われています。



測量実習の様子

「清瀬されてきている。新しい機器や技術を最大限に活用するために、基礎的な知識や基本技術はものすごく大切です。」

また学校内だけでなく体験を通して学ぶために、インターンシップや現場見学、さらに工業高校の特色を生かした技術ボランティアに取り組んでいます。これは、建設工学科の学習目標である「環境にやさしいまちづくり」を実行するもので、ボランティア活動を通して、学校内で学ぶ専門的な知識と、実際の技術の統合化を図り、自ら社会の発展に寄与する創造的



指導にも熱がこもる

な能力と実践的な態度を育成することを目的としています。具体的には、「山口きらら博」の時の山口ゾーンの休憩施設の設定や、萩市内の一人暮らしの高齢者宅に、手すりを取り付けたり、簡単な室内の修理など、工業の生徒としてできる範囲のボランティアを行っています。

その他に年間を通して、測量士補国家試験、施工技術者試験、中国地区測量競技会、中国地区土木系製図コンテスト、小型建設機械免許取得講習会といった資格試験や競技会に、学校・科の行事として取り組んでいます。

「今は不況で低迷していますが、建設という業種がなくなることはありません。学生が自信をもって社会に出ていけるように、我が校でも積極的に資格を取得させるなどしてバックアップしています。1人1人が建設に意欲をもつのはもちろんですが、それと同時に大きな視野をもち、地域全体を見た土木人、建築人であってほしいと思いますね。」

生徒の個性や可能性を十分に伸ばしていける環境をつくる。次の時代を担う生徒達をしっかりと支えている藤田先生でした。

### 教育現場訪問

## 未来の自分たちに

### 思いをはせながら

「愛宕山地域開発事業造成工事」現場見学の中で暑さが日に日に増し始めた七月十七日、山口県立徳山工業高校三年生の生徒三十二名の皆さんは、岩国市内の建設現場へ見学に訪れていました。最初の見学地・愛宕山地域開発事業造成工事の現場では、ビデオによる事業概要説明を受けた後、実際に作業を行っている現場へと移りました。こちらの工事は岩国市の新都市となる大規模な地域開発であるため、まず現場が見渡せる場所です。それぞれの作業の説明から始まり、その後作業現場に向かい、詳しい説明を受けていました。掘削現場では、通常の道路工事などで使用している数十倍、国内最大級のブルドーザーやバックホー、ダンプなどが活躍していました。滅多に見ることができないだけに、生徒達の目は輝き、数人の生徒が実際にショベル部分の中に入り、すっぽりと収まってしまふ大きさに驚いたりしていました。また、大きなダンプや散水車が行



け・ん・せ・つ WOMAN

## 奥が深くて やりがいがある仕事！

池岡 幸恵さん  
YUKIE IKEOKA 大池組株式会社(平生町) 昭和39年生  
兵庫県出身、武庫川女子大学付属高等学校普通科卒業

凛とした表情でパソコンに向かっているのは、池岡幸恵さん。家庭も仕事もきっちりこなす、人一倍の努力家です。



この仕事を始めてから、かれこれ10年弱になります。その間に1級土木施工管理、2級建築施工管理、2級建設業計士の資格をとりました。パソコンのソフトも

そうなのですが、ほとんど独学ですね。今は主に公用書類の作成をしています。完成した建築物を現場で図り、事務所でパソコンを使って図面化する作業です。私は几帳面な性格なので、図面をかくのには向いているのかもしれませんが、問題ない程度の微妙な線のズレなども気になってすぐ直しますね(笑)。

主に事務所内の仕事ですし、女性ということ意識したことには特にありません。今は機械のできる仕事も多いので、現場にしる、事務所の仕事にしる女性でも問題なくできるのではと思います。その分、機械の操作を覚えるのは大変ですけどね。うちの会社は3割が女性社員なんです。多いほうじゃないですか！また、事務所にいる女性でも現場のことを理解できるように、書類・図面・管理にしても社員みんなに分かりやすくなっています。こうすることで、現場に関する電話などにある程度対応できるからです。

この業種で一般事務だけをされている女性も多いみたいだけど、もう1歩建設業に踏み込んでみればいいのになぁと思います。奥が深くてももしろい仕事ですしもったいないですよ。建設のことが分かってくれば仕事もはかどって、やりがいもありますよ！

き交う中をバスで移動しながらの見学だったため、車内でもそれぞれの生徒が窓の外の作業を見ながら、見たこと、感じたことを互いに話していました。

愛宕山では、掘削した土砂を船に載せて移動させるため、海まで四百メートルのベルトコンベアトンネルがコンピュータ管理によって動かされています。生徒達はそのトンネルの中で、土砂が移動する横を実際に歩いて行くという貴重な体験もしました。

また、愛宕山の岩盤は非常に硬いため、ダイナマイトによる発破作業が必要となります。何もかも初めての体験ばかりの中、さらに初めて間近で見るダイナマイトの威力は、地を伝う振動となって生徒達の体にも伝わり、作業終了後

目のあたりにするの発破作業



規模の大きさを感じながら

がするべき仕事に思いをはせながら、真剣なまなざしで話してくれました。また、引率の先生も「こういった有意義な見学ができるのは、卒業生が着実にこういった企業で活躍しているおかげです。私自身こういったものを見る機会がなかなかないので、生徒以上に興奮しました(笑)」。卒業生は学校の財産ですから、これからもこういった見学をきっかけに、財産が増えることを楽しみにしています。」と未来の有望者達を見守りながら話していました。